平成25年6月期
決算説明会

平成25年8月23日

ペプチドリーム株式会社

目次

1．決算概要（平成25年6月期）

2．当社の事業内容について

3．通期業績予想（平成26年6月期）

当該資料は当社の会社内容を説明するために作成されたものであり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。
また、資料の内容は資料作成時に弊社が判断したものであり、その情報の正確性を保証するものではありません。
投資を行う際は、投資家ご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。

PeptiDream

平成25年6月期
決算概要

平成25年6月期　業績概要

（単位：百万円）

	平成24年6月期	平成25年6月期	増減	
	（実績）	（実績）	（額）	（率）
売上高	269	678	＋409	＋152.1％
売上原価	167	267	＋100	＋59.8％
売上総利益	101	410	＋309	＋304.3％
販売費及び一般管理費	119	249	＋130	＋108.7％
研究開発費	40	51	＋10	＋26.4％
その他	79	198	＋119	＋150.6％
営業利益又は損失(▲)	▲18	160	＋178	―
経常利益又は損失(▲)	▲21	174	＋195	―
当期純利益	9	137	＋127	＋1,275.7％

平成25年6月期　業績概要

- ✓ 売上高は、創業以来過去最高に
- ✓ 営業損益・経常損益でも黒字化を達成
- ✓ 引き続きローコストオペレーションを推進していく
- ✓ GlaxoSmithKline（英国グラクソ・スミスクライン社）及び第一三共株式会社と新規に共同研究開発契約を締結した
- ✓ ４社の国外大手製薬会社と既存共同研究開発契約の延長若しくは追加を実施した
- ✓ Pfizer Inc.（米国ファイザー社）とは共同研究開発契約を解消することになった
- ✓ 新たな取り組みとして、ペプチド医薬研究開発で実績のあるIPSEN,S.A.S（仏国イプセン社）との間で共同研究契約を締結し、共同研究を開始した

平成25年6月期　貸借対照表概要

（単位：百万円）

	平成24年6月期（実績）	平成25年6月期（実績）	増減
流動資産	300	5,760	+ 5,459
（構成比）	74.1%	97.2%	
固定資産	104	165	+ 60
（構成比）	25.9%	2.8%	
流動負債	78	229	+ 151
（構成比）	19.4%	3.9%	
純資産	327	5,696	+ 5,368
（構成比）	80.6%	96.1%	
総資産	405	5,926	+ 5,520

- ✓ 総資産のほとんどが現預金で占められている
- ✓ 株式上場により自社創薬に注力できる資金的な余裕ができた

平成25年6月期　キャッシュ・フローの概要

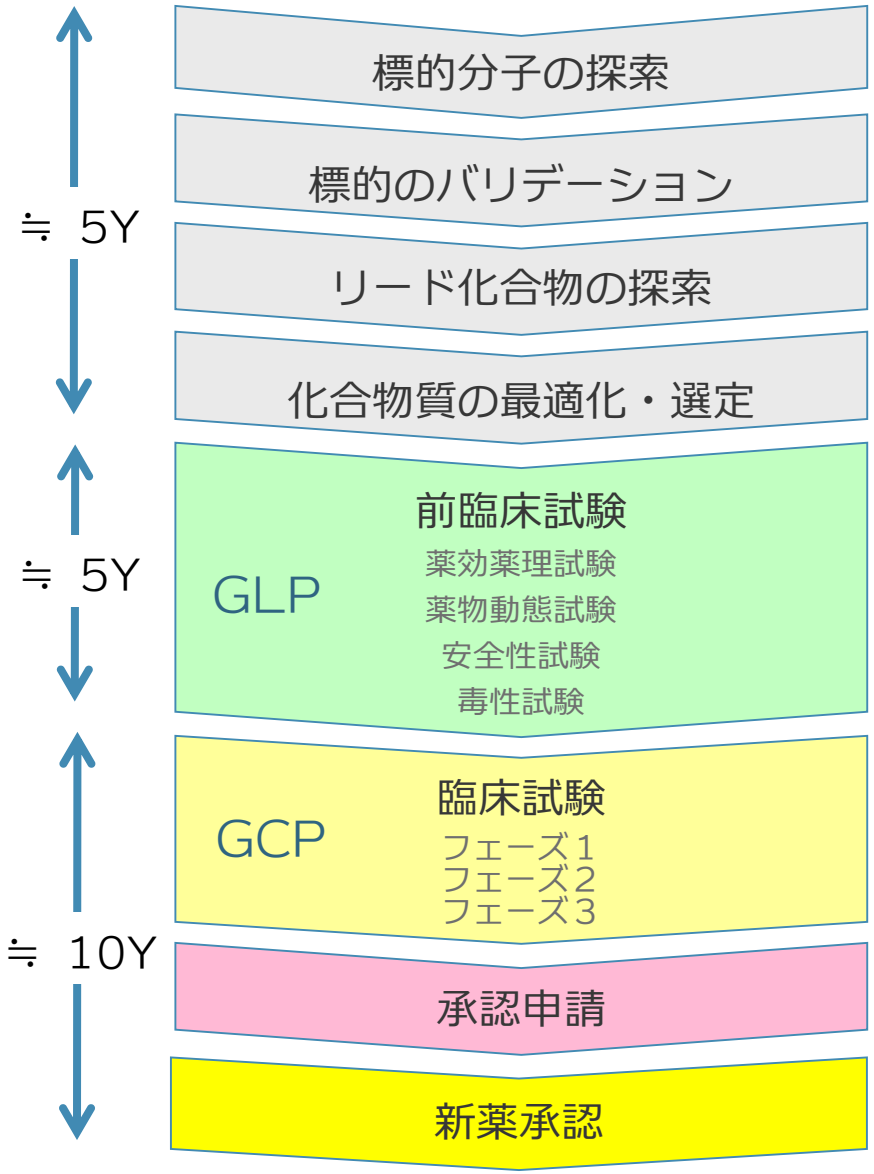
（単位：百万円）

	平成24年6月期（実績）	平成25年6月期（実績）	増減
営業キャッシュフロー	▲150	234	+385
投資キャッシュフロー	▲56	▲112	▲55
財務キャッシュフロー	▲16	5,187	+5,203
現金・現金同等物残高	229	5,572	+5,343

- ✓ 売上の増加により、営業CFがプラスに転じた
- ✓ 株式上場による資金調達により財務CFが大幅に増加し、強固な財務体質になった

当社の事業内容について

創薬業の難しさ



563,589	
202	1／2,790
83	1／6,790
35	1／16,103
26	1／21,677

21,677分の1

☞ 日本製薬工業協会で集計された2003年（平成15）から2007年（平成19）までの5年間に薬の候補とされたリード化合物のうち新薬として承認を取得したものの確率データを元に当社にて作成しました。

創薬業の成功のためには・・・

新薬の開発は他の産業より成功までの時間軸が長いうえ、その成功率は驚くほど低い。

いかに効率的かつ効果的な研究開発態勢を構築することができるかがポイントになる。

効率的な創薬開発のためには・・・

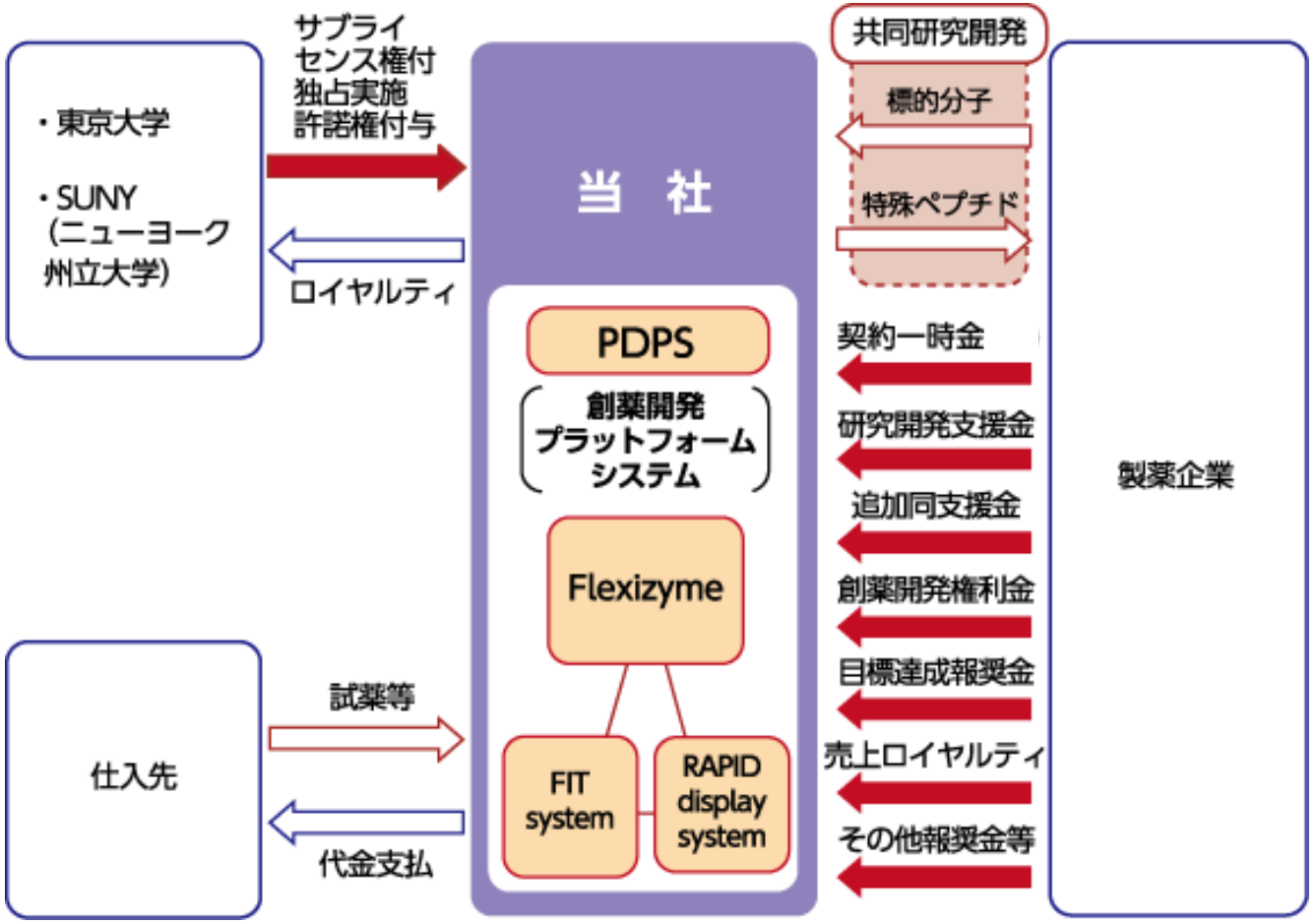


効率的にポテンシャルの高いリード化合物を創出できるシステムが必要

ドロップ・リスクの低いリード化合物が必要

経験とノウハウが必要

当社アライアンス事業の事業モデル［事業系統図］



売上金は基本的に前払いで受領し、返金義務は無い

- ☞ 資金的に余裕をもって研究開発ができる
- ☛ 反面、クライアント側からは解約も容易

バイオベンチャーの新しい事業分類（ポジショニング）

PeptiDream

分　類	創薬系	創薬基盤技術＋創薬系	創薬支援系（試薬・機器他）	研究支援系
特　徴	自ら開発したり導入・改良したリード化合物候補の権利を製薬企業に販売する。	創薬基盤技術をベースとして製薬企業と共同開発を推進するとともに、自社独自の創薬開発も実施する。	バイオ基礎研究用の試薬や機器販売、研究受託による創薬支援を実施する。	特徴的な技術を通じてバイオ受託研究を推進する。
主な顧客	製薬企業	製薬企業	メーカー 研究機関	研究機関

創薬基盤技術で創薬の種を無数に生み出す

☞ 創薬基盤技術によって、①既存のアライアンス事業（共同研究開発）を進めつつ、②自社独自の創薬開発も並行して推進することができる。

一般に薬の候補物質はどのようにして見つけ出すのか

PeptiDream

低分子医薬の場合

① それぞれの目的（ターゲット）に沿ったライブラリーを作成（入手）してスクリーニングする。

② 方法：合成コンビケムライブラリー
天然物ライブラリー・・・等

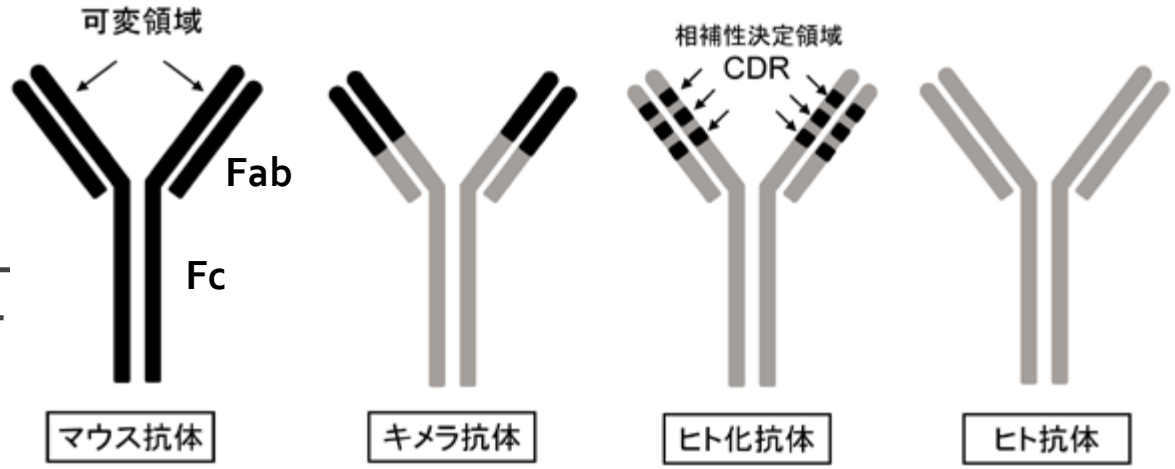


新しいライブラリーの作成（入手）が困難

一般に薬の候補物質はどのようにして見つけ出すのか

PeptiDream

抗体医薬の場合



① それぞれの目的（ターゲット）に対して特異的抗体を作成してスクリーニングする。

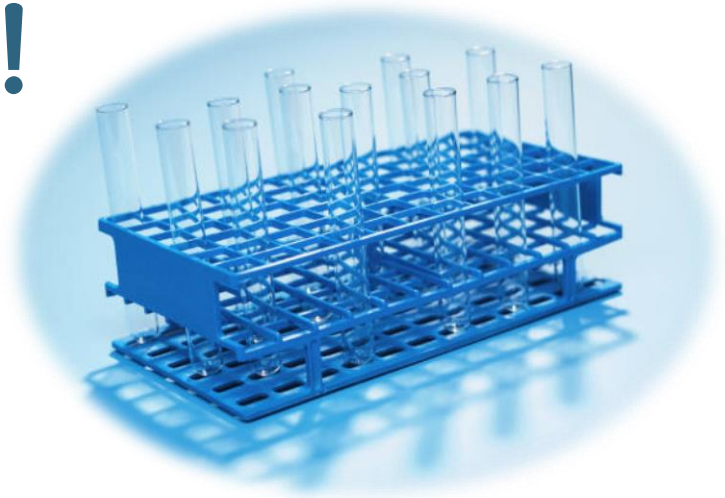
② 方法：ヒト抗体生産マウスによる創製
ファージディスプレイ法による創製
ニワトリB細胞株を用いて創製
ヒトB細胞を用いて創製・・・等

複数の技術が競合している

特殊ペプチドの優位性①

PeptiDream

特殊ペプチドは、当社・創薬開発プラットフォームシステム（PDPS）により試験管内で簡単に創製することができる。相対的に大きな設備投資は不要！



PDPSは当社、独占独自技術

特殊ペプチドの優位性②

低分子医薬は・・・

- ⊕ サイズが小さく様々な標的分子に対応できる
- ⊖ 結合すべきでない分子に結合して副作用を引き起こす

抗体医薬は・・・

- ⊕ 標的分子に対する結合力や特異性に優れている
- ⊖ 免疫原性の問題（身体が異質なタンパク質にさらされて望ましくない免疫応答が起こること）が生じる

特殊ペプチドの優位性③

相対的な特徴	低分子医薬	抗体医薬	特殊ペプチド医薬
迅速な研究開発が可能	×	○	○
ターゲットに対する強い結合力	×	○	○
ターゲットに対する強い特異性	×	○	○
生体内毒性が低い	×	○	○
タンパク・タンパク阻害反応	×	○	○
高い生体内安定性	×	○	○
ターゲットの多様性の多さ	○	×	○
細胞内のターゲットに対応	○	×	○
経口投与が可能	○	×	？
大量製造の容易さ	○	×	△
迅速な商品（製剤）化	○	×	△
低い生体内免疫反応性	○	×	○

（注）　「○」は備える又は優れると思われる能力　／　「△」は備えると期待される能力
「×」は備えていない又は劣ると思われる能力　／　「？」は不明な能力

特殊ペプチドは低分子・抗体医薬のよいところを兼ね備えた創薬ができるかも知れない

当社のPDPS技術体系

Flexizyme 技術
（ 多目的*tRNA*アシル化*RNA*触媒 ）
特殊ペプチドを創製する

FIT system
（ *Flexible In-vitro Translation* ）
ライブラリー化する

RAPID display system
（ *RAndom Peptide Integrated Discovery display system*）
高速スクリーニングする

PDTS
Peptide Discovery Translation System

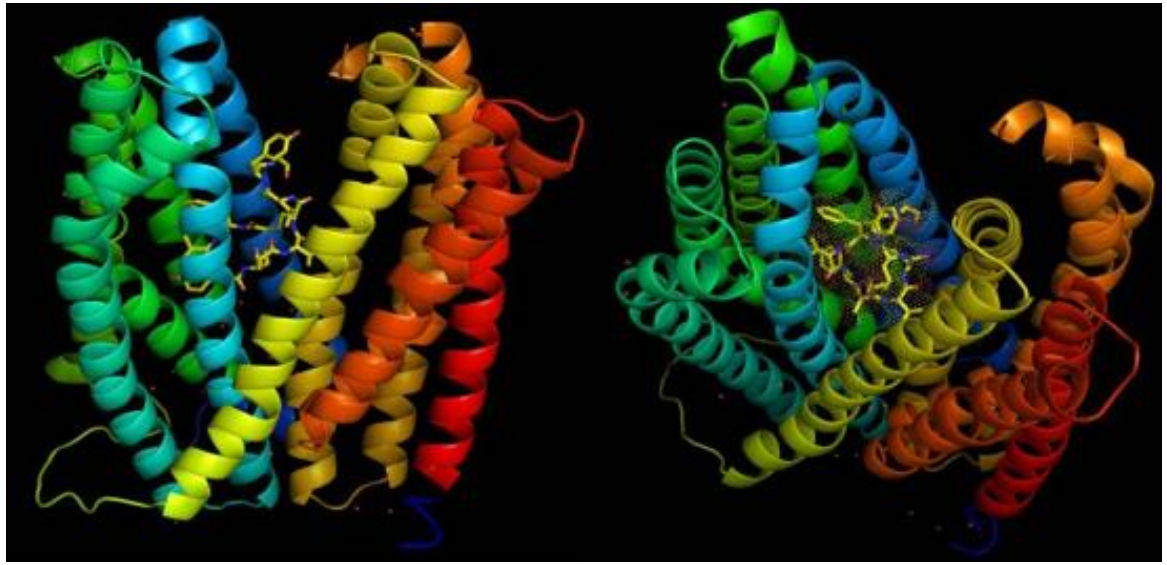
PDDS
Peptide Discovery Display System

PDPS
Peptide Discovery Platform System

体系的な独自技術が新たな創薬技術の地平を切り拓く

技術その１　フレキシザイム技術で特殊ペプチド創製

当社は、東京大学大学院理学系研究科・菅裕明教授が開発した「人工リボザイム」（名称：　**「フレキシザイム」**　）を活用することにより、翻訳合成で今までペプチドを合成する時の材料として組み込むことが困難であった**「特殊アミノ酸」をペプチド合成に組み込むことができる**ようになりました。
この技術により、**医薬品としての作用濃度を維持する**ことや、**細胞内の標的をターゲットにする**ことが**可能**になりました。



翻訳合成で早く・安価に・簡便に「特殊ペプチド」を作り出す

技術その２ FITシステム*でライブラリー化

当社は、フレキシザイム技術で創製した「特殊ペプチド」を、「FITシステム」*により、格段の**多様性**を持ったライブラリーとして構築することができます。
ライブラリーの多様性は、医薬品としての候補物質を含んでいる可能性を高めますので、**多様性が大きくなればなるほど、医薬品候補物質発見の可能性も大きくなります**。

特殊ペプチドライブラリーの多様性は、低分子医薬の１億倍

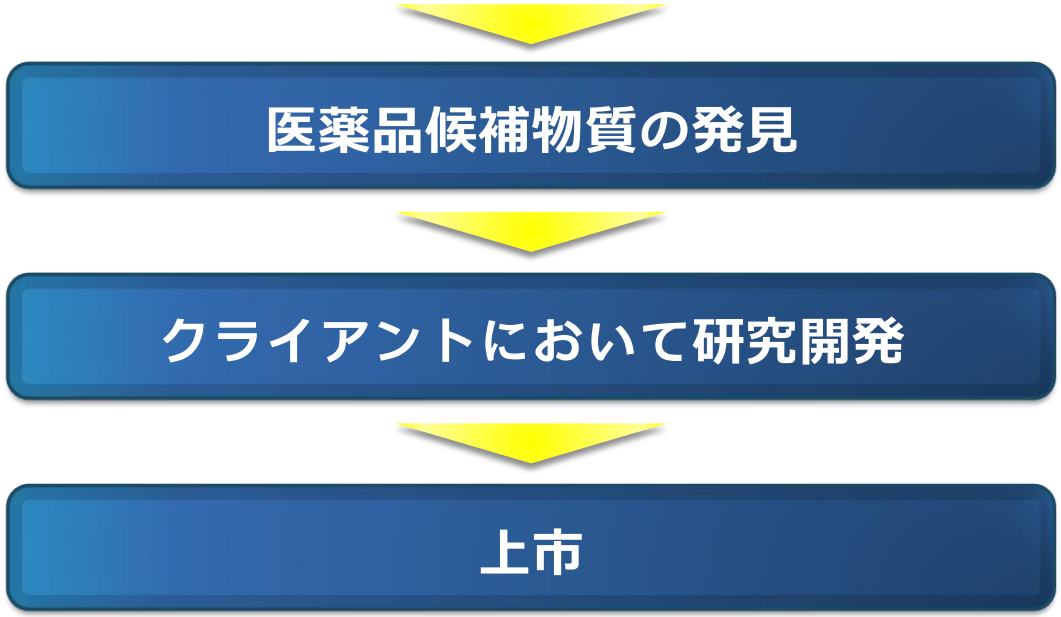
〈医薬品候補物質の多様性の比較〉

ライブラリーの種類	多様性
低分子医薬	10^4 ～ 10^5
抗体医薬	10^8 ～ 10^{10}
特殊ペプチド医薬	10^{12} ～ 10^{14}

＊　当社ではFITシステムを改良し、フレキシザイム技術と組み合わせることによって「PDTS」という独自の翻訳合成系を構築しております。

技術その３ RAPIDディスプレイシステムでスクリーニング

多様性を持った特殊ペプチドライブラリーのポテンシャルを引き出すには、**数千億から兆単位の数の特殊ペプチドを効率的かつ高速、正確にスクリーニング**する必要があります。
当社のRAPIDディスプレイシステムは、医薬品候補物質になり得る**特殊ペプチドを短期間でスクリーニング**できる高速のスクリーニングシステムです。



格段の規模を持つライブラリーから最適な候補物質を見つけ出すことができる

当社の特許・知財のポートフォリオ



特許・知財ポートフォリオが、「創薬基盤技術＋創薬系」バイオベンチャーを実現する

当社知財戦略の特徴と留意点

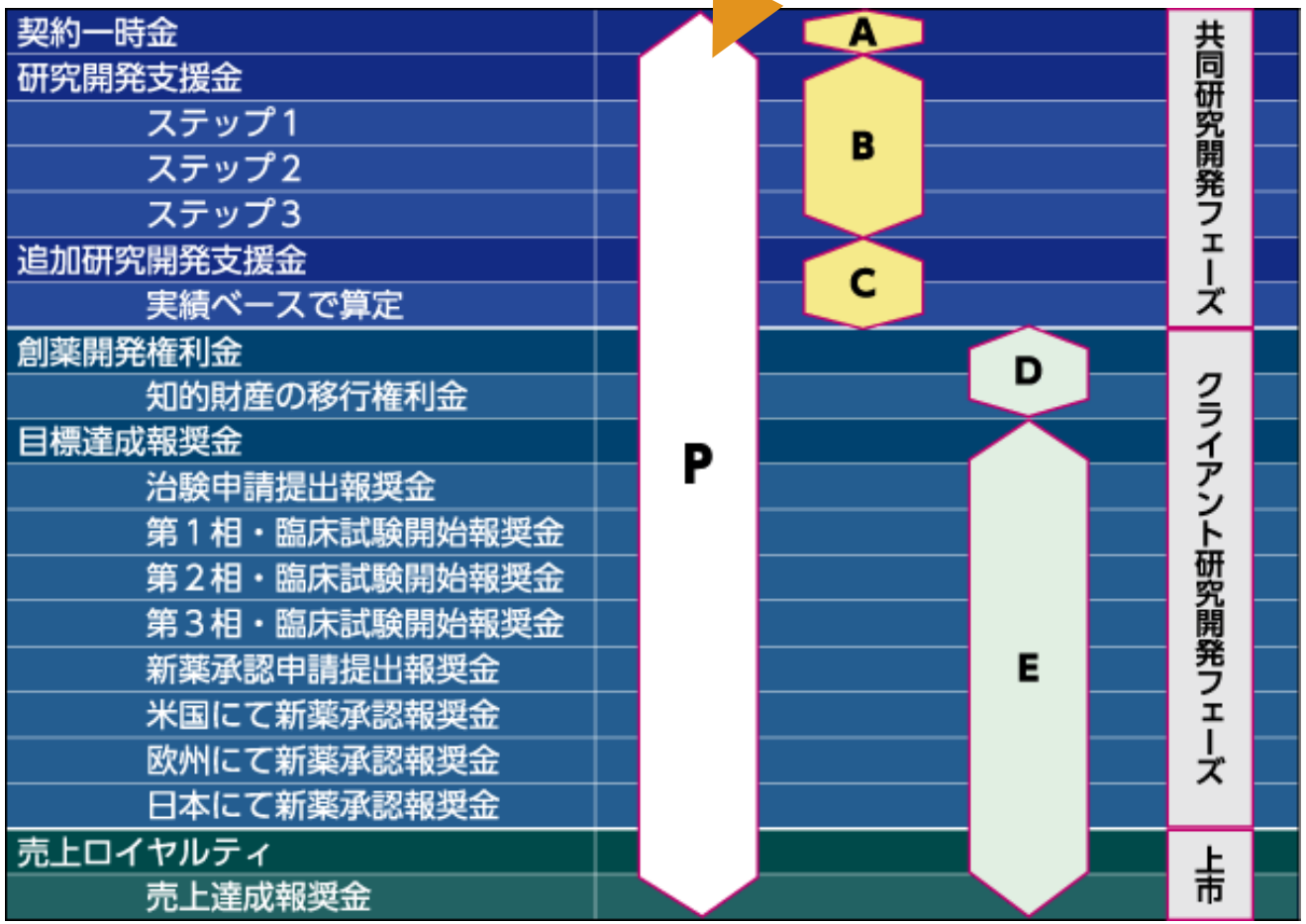
①Catalytic RNAs with Aminoacylation Activity（R 5590/ R5610）	②Ribozymes with Broad tRNA Aminoacylation Activity（R-5749）
③多目的アシル化触媒とその用途	④N末端に非天然骨格をもつポリペプチドの翻訳合成とその応用
⑤環状ペプチド化合物の合成方法	⑥ペプチド翻訳合成におけるRAPIDディスプレイ法
⑦新規人工翻訳合成系（FIT システム）	⑧N-メチルアミノ酸及びその他の特殊アミノ酸を含む特殊ペプチド化合物ライブラリーの翻訳構築と活性種探索法
⑨αヘリックス２次構造を固定した特殊ペプチドライブラリーの合成法と活性種探索法	⑩特異的機能低分子化合物含有特殊ペプチドライブラリーの合成法と活性種探索法
⑪アゾリン化合物及びアゾール化合物のライブラリー、並びにその製造方法	⑫pH依存的に標的分子に結合するペプチドのスクリーニング方法
⑬MATE活性阻害ペプチド	⑭抗インフルエンザウイルス活性を有するペプチド
⑮ヘテロ環を含む化合物の製造方法	⑯ペプチドライブラリーの製造方法、ペプチドライブラリー、及びスクリーニング方法

※ 当社の特許群（出願中のものを含む。）
黄色い枠内がPDPS（*Peptide Discovery Platform System*）を構築する特許群です。

【特徴】
当社は独自の創薬プラットフォームシステム（PDPS）を構築するとともに、特殊ペプチドに関する知財を幅広く網羅するような特許ポートフォリオを構築しています。これにより、特殊ペプチドに関する知財は何らかの形で当社の特許ポートフォリオと係わりを持つことになります。当社は、当社の特殊ペプチドが創薬技術のデファクトスタンダードとなることを目指しています。

【留意点】
前述のデファクトスタンダード化を目指すに当たって、知財戦略上、権利の抵触問題等が生じ、積極的な対応を取ることが必要になる場合が考えられます。その結果、法的な紛争等が生じる可能性があります。

当社の共同研究開発契約（アライアンス事業）の特徴



- 最初の契約締結時において契約一時金から売上ロイヤルティまで（P）を決めている
- （A）から（C）は当社の事業活動に依拠する部分が大きい
- （D）や（E）は、クライアントにおける業務の進行状況に大きく依存しており、当社でのコントロール及び売上予測は極めて困難

当社アライアンス事業の特徴と留意点

ペプチドリーム		クライアント（製薬企業）			
基礎研究	リード化合物創製	検討ライセンス	非臨床試験GLP	臨床試験GCP	承認・販売
研究開発支援金		ライセンス料	マイルストーン		ロイヤリティ

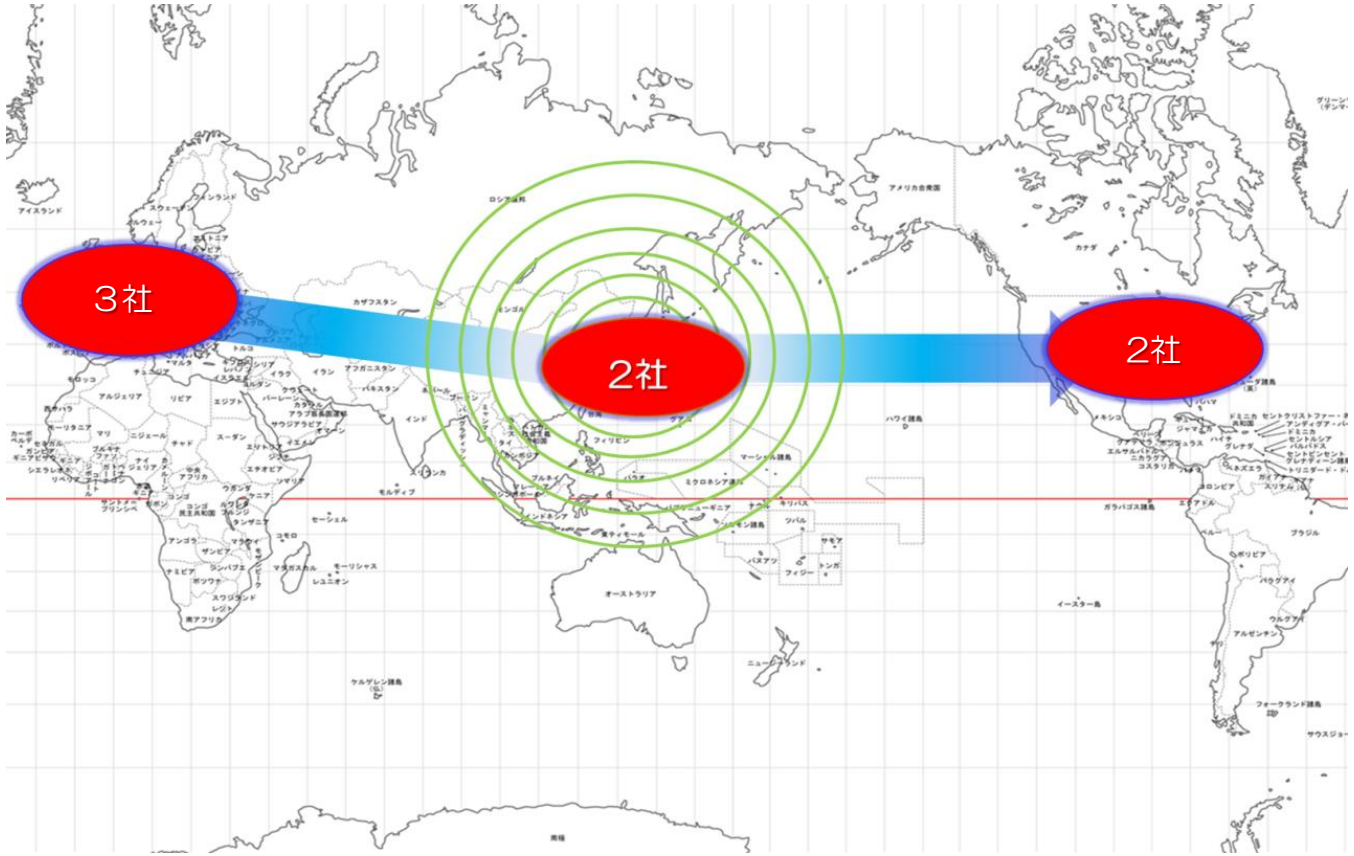
☞ 前金制＝中途解約でも返金義務なし
☞ 契約期間中の知財は当社が権利者
契約解消によって標的分子に関する情報やノウハウ等を当社が利用できる

☞ 事前に設定された条件・目標を達成することにより報奨金が支払われる

☞ 当社の努力で成果を出すことができるフェーズ
☞ もちろん、思うような成果が出ないこともある
☞ このフェーズにおける取り組みで黒字経営を実践できるだけの計画を策定し、実行している
☞ しかしながら、進捗状況・プロジェクト数等により黒字に至らない場合もある
☞ クライアントの都合で解約は自由にできる

☞ 原則、当社での対応はないフェーズであり、このフェーズで上がる売上は当社にとっては原価が発生しない無原価収益となる
☞ 検討・開発期間はクライアントの状況・進捗によって左右される
☞ 報奨金の発生（達成）時期は、クライアントによる評価の時期に依存している
☞ そのため、売上計画に対する実際の売上発生（達成）時期が大幅に変動してしまうおそれがある

当社の共同研究開発（契約）パートナー



（注） 上の図は「共同研究開発契約先」の社数を表しています。

〈共同研究開発先〉

AstraZeneca
AMGEN
Bristol-Myers Squibb
gsk GlaxoSmi
Daiichi-Sankyo
NOVARTIS
田辺三菱製薬

〈共同研究先〉

IPSEN Innovation for patient care
東京都臨床医学総合研究所

成長戦略

PeptiDream

基礎研究 | プロトタイプ開発 | 非臨床試験 GLP | 臨床試験 GCP | 承認・販売

既存

アライアンス事業【これまでのステージ】

Bristol-Myers Squibb　NOVARTIS　田辺三菱製薬

AMGEN　gsk GlaxoSmi　AstraZeneca　Daiichi-Sankyo

新規

自社創薬研究開発の推進【これからのステージ】

経験豊かなペプチド創薬企業との連携

ノウハウの吸収 ＋ 経験の蓄積


PRESS RELEASE

PeptiDream　IPSEN Innovation for patient care

PeptiDream and Ipsen enter into a collaboration for advancing drug discovery efforts for peptides to treat serious disease

PeptiDream

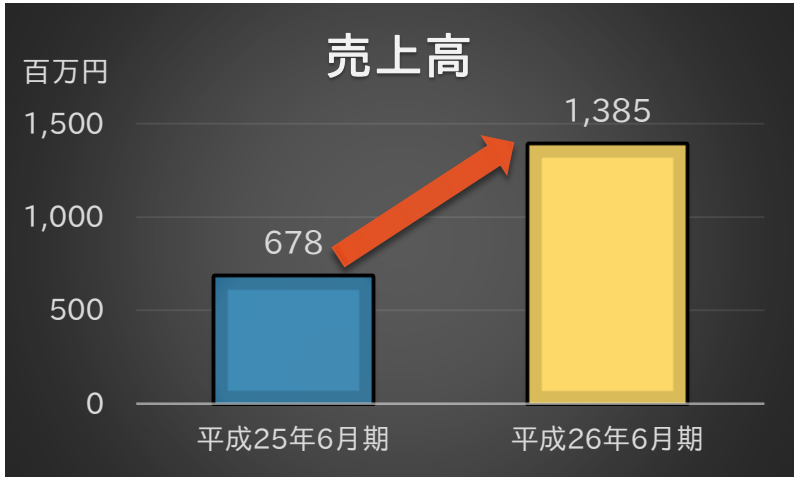
平成26年6月期
通期業績予想

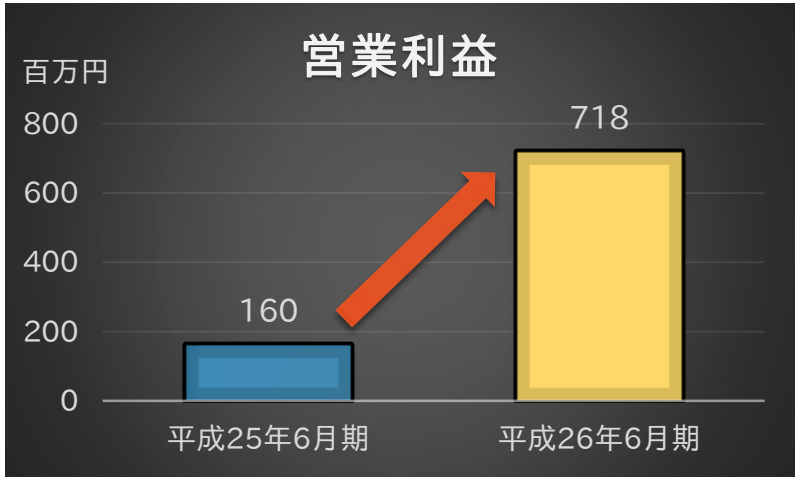
平成26年6月期　通期業績予想

（単位：百万円）

	平成25年6月期	平成26年6月期	増減	
	（実績）	（予想）	（額）	（率）
売上高	678	1,385	＋707	＋104.3％
営業利益	160	718	＋558	＋347.1％
経常利益	174	714	＋540	＋310.3％
当期純利益	137	442	＋305	＋222.9％

（注） 当社では年次で業績を管理しているため、通期業績予想のみ開示しております。





平成26年6月期　通期業績予想

PeptiDream

- ✓ いよいよ売上カテゴリーがクライアント研究開発フェーズにまで広がる

  【 平成26年6月期 目標 】

  - ☞ 現在獲得しているリード化合物２件をライセンスする
  - ☞ 新規にリード化合物を２件以上獲得する
  - ☞ 新規の共同研究開発契約先を１件以上獲得する
  - ☞ 技術貸与契約を１件以上締結する
  - ☞ 自社パイプラインの動物実験データ（成功例）を公表する

- ✓ 業容拡大に伴って売上原価は、約70百万円の増加を見込む
- ✓ 同じく販売費及び一般管理費は、約80百万円の増加を見込む
- ✓ 研究開発費は、前期の約51百万円から約39百万円増の約90百万円を見込む

事業等のリスク

本資料に記載されている将来に関する記述を含む歴史的事実以外のすべての記述は、当社が現在入手している情報に基づく現時点における予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、予想数値を算定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に予想を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を用いています。これらの記述、事実又は前提（仮定）は、客観的には不正確であったり将来実現しない可能性があります。その原因となる潜在的リスクや不確定要因としては以下の事項があり、これらはいずれも当社の事業、業績又は財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。また潜在的リスクや不確定要因はこれらに限られるものではありませんのでご留意ください。

1.当社は特殊ペプチド医薬に特化した事業を展開していること。

2.当社の特殊ペプチドから薬が生まれた事例は未だなく、当社の特殊ペプチド創薬技術がクライアントの医薬品開発に貢献できない可能性があること。

3.当社の事業の特性上、研究開発支援金はクライアントの方針転換等の影響を受けてプロジェクトが終了し、それ以降の収益が計上できないことがあること。また、創薬開発権利金や各種目標達成報奨金は、クライアントにおける業務の進行状況に大きく依存するものであり、当社でのコントロールは極めて困難な売上カテゴリーであること。

4.当社の事業展開上、第三者の権利若しくは利益を侵害した場合又は侵害していない場合でも相手側が侵害したと考える場合には、損害賠償等の訴訟を提起されるなど法的な紛争が生じる可能性があること。当社と第三者との間に法的な紛争が生じた場合、紛争の解決に労力、時間及び費用を要するほか、法的紛争に伴うレピュテーションリスクにさらされる可能性があること。

5.出願中の発明すべてについて特許査定がなされるとは限らないこと。また、特許権を設定登録した場合でも、特許権に係る法的な紛争が生じ、当社が実施する権利に何らかの悪影響が生じる可能性や当社が実施する特許権を上回る優れた技術の出現により、当社が有する特許権に含まれる技術が陳腐化する可能性があること。

6.小規模組織であること。

7.当社や当社の関係者、当社の取引先等に対する否定的な風説や風評が、マスコミ報道やインターネット上の書き込み等により発生・流布した場合、それが正確な事実に基づいたものであるか否かにかかわらず、当社の社会的信用に影響を与える可能性があること。

最後に

PeptiDream

夢なき者に理想なし、

理想なき者に計画なし、

計画なき者に実行なし、

実行なき者に成功なし、

故に、夢なき者に成功なし。

Our Dreams can come true！

日本発の新技術で世界初の創薬を！


PeptiDream